

## 【1 青森県の推計人口】

2024(令和6)年4月1日現在

**県人口** 1,170,622人 (対前月6,327人減少)

- ・ **自然動態** 1,364人減少 (出生者数 382人、死亡者数 1,746人)
- ・ **社会動態** 4,963人減少 (転入者数 3,058人、転出者数 8,021人)

## 【2 本県の経済動向 2024(令和6)年2月・3月の指標を中心として】

### (1) 経済概況

本県経済は、一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している。

## (2) 主要経済指標の動向

(2-1) 生産動向	・2024年2月の <u>青森県鉱工業生産指数</u> (2015(平成27)年=100)は、季節調整済指数が105.7で、前月比6.6%の上昇となり、4か月連続で前月を上回った。また、原指数は93.7で、前年同月比5.8%の上昇となり、3か月連続で前年同月を上回った。	…5
(2-2) 雇用労働 ※有効求人倍率は更新なし	・2024年2月の <u>定期給与</u> は230,031円で前年同月比2.9%増となった。 <u>総実労働時間</u> は143.5時間で前年同月比2.1%増、 <u>所定外労働時間</u> は8.2時間で前年同月比増減なしとなった。 ・2024年2月の <u>有効求人倍率</u> (季節調整値)は1.15倍となり、35か月連続で1倍を上回った。	…7
(2-3) 物 価	2024年3月の <u>青森市消費者物価指数</u> (2020(令和2)年=100)は、総合指数が108.7となり、前月比0.4%の上昇、前年同月比3.2%の上昇となった。また、生鮮食品を除く総合指数は107.9となり、前月比0.3%の上昇、前年同月比2.9%の上昇となった。	…10
(2-4) 個人消費 ※百貨店・スーパー販売額、観光入込客数・宿泊者数は更新なし	・2024年2月の <u>百貨店・スーパー販売額</u> は、146億円で全店舗ベースが前年同月比6.0%増となり、20か月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比4.1%増となり、20か月連続で前年同月を上回った。 ・2024年3月の軽乗用車を含めた <u>乗用車新車登録・届出台数</u> は3,988台で、前年同月比20.7%減となり、3か月連続で前年同月を下回った。 ・2024年2月の主な観光施設の <u>観光入込客数</u> は、59万7千人で前年同月比37.8%増となり、23か月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設の <u>宿泊者数</u> は、16万3千人で前年同月比12.8%増となり、2か月連続で前年同月を上回った。	…12
(2-5) 建 設 ※新設住宅着工戸数は更新なし	・2024年2月の <u>新設住宅着工戸数</u> は204戸で、前年同月比14.0%増となり、5か月ぶりに前年同月を上回った。 ・2024年3月の <u>公共工事請負金額</u> は154億6,100万円で前年同月比27.9%増となり、2か月ぶりに前年同月を上回った。	…17
(2-6) 企業倒産	2024年3月の <u>企業倒産</u> は、件数は4件で前年同月と同水準となった。負債総額は7億3,100万円で前年同月比23.8%減となり、4か月ぶりに前年同月を下回った。	…19

## (3) 景気動向指数 (2024年2月分)

・先行指数	109.2 (前月を7.8ポイント下回り、3か月ぶりに下降した)	…20
・一致指数	134.0 (前月を4.7ポイント上回り、3か月連続で上昇した)	
・遅行指数	94.8 (前月を1.2ポイント下回り、2か月ぶりに下降した)	

## (4) 青森県景気ウォッチャー調査 (2024年4月期)

・3か月前と比べた景気の現状判断D I	54.6 (前期を4.6ポイント上回り、3期ぶりに上昇した)	…21
・3か月後の景気の先行き判断D I	57.7 (現状判断D Iと比べて3.1ポイント上昇した)	

# 1 青森県の推計人口【2024(令和6)年4月1日現在】

【概況】 現在の本県推計人口は、1,170,622人で、対前月6,327人の減少となった。

○自然動態 出生者数が382人、死亡者数が1,746人で、1,364人の減少となった。

○社会動態 転入者数が3,058人、転出者数が8,021人で、4,963人の減少となった。

## 総人口の推移

(単位:人)

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数			社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
						出生者数	死亡者数				
1970(昭和45). 10. 1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
1975(昭和50). 10. 1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
1980(昭和55). 10. 1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
1985(昭和60). 10. 1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
1990(平成 2). 10. 1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
1995(平成 7). 10. 1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
2000(平成12). 10. 1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
2005(平成17). 10. 1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
2010(平成22). 10. 1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
2015(平成27). 10. 1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
2020(令和 2). 10. 1	1,237,984	583,402	654,582	-	-70,281	-	-	-	-	-	-
2023(令和 5). 4. 1	1,190,685	561,430	629,255	-0.510%	-6,104	-1,294	491	1,785	-4,810	3,360	8,170
2023(令和 5). 5. 1	1,190,195	561,336	628,859	-0.041%	-490	-1,099	480	1,579	609	3,214	2,605
2023(令和 5). 6. 1	1,189,091	560,764	628,327	-0.093%	-1,104	-1,171	515	1,686	67	1,333	1,266
2023(令和 5). 7. 1	1,188,044	560,321	627,723	-0.088%	-1,047	-1,079	488	1,567	32	1,220	1,188
2023(令和 5). 8. 1	1,186,920	559,830	627,090	-0.095%	-1,124	-1,048	477	1,525	-76	1,544	1,620
2023(令和 5). 9. 1	1,185,821	559,294	626,527	-0.093%	-1,099	-1,312	509	1,821	213	1,723	1,510
2023(令和 5). 10. 1	1,184,558	558,746	625,812	-0.107%	-1,263	-1,252	439	1,691	-11	1,304	1,315
2023(令和 5). 11. 1	1,183,497	558,229	625,268	-0.090%	-1,061	-1,254	491	1,745	193	1,395	1,202
2023(令和 5). 12. 1	1,182,185	557,638	624,547	-0.111%	-1,312	-1,281	465	1,746	-31	1,060	1,091
2024(令和 6). 1. 1	1,180,672	556,921	623,751	-0.128%	-1,513	-1,439	450	1,889	-74	1,047	1,121
2024(令和 6). 2. 1	1,178,731	556,031	622,700	-0.164%	-1,941	-1,637	443	2,080	-304	922	1,226
2024(令和 6). 3. 1	1,176,949	555,164	621,785	-0.151%	-1,782	-1,344	400	1,744	-438	952	1,390
2024(令和 6). 4. 1	1,170,622	551,792	618,830	-0.538%	-6,327	-1,364	382	1,746	-4,963	3,058	8,021

# 1 青森県の推計人口(2024(令和6)年4月1日現在)

## 3月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月		2014.3 (平成26.3)	2015.3 (平成27.3)	2016.3 (平成28.3)	2017.3 (平成29.3)	2018.3 (平成30.3)	2019.3 (平成31.3)	2020.3 (令和2.3)	2021.3 (令和3.3)	2022.3 (令和4.3)	2023.3 (令和5.3)	2024.3 (令和6.3)
自然動態	出生者数	745	737	743	665	617	597	561	584	525	491	382
	死亡者数	1,475	1,461	1,483	1,565	1,620	1,462	1,537	1,664	1,777	1,785	1,746
	自然増減数	-730	-724	-740	-900	-1,003	-865	-976	-1,080	-1,252	-1,294	-1,364
社会動態	県外からの転入者数	3,923	3,806	3,828	3,993	3,686	3,410	3,634	3,583	3,346	3,360	3,058
	県外への転出者数	9,050	9,159	9,102	9,339	9,367	9,183	8,722	8,102	7,946	8,170	8,021
	社会増減数	-5,127	-5,353	-5,274	-5,346	-5,681	-5,773	-5,088	-4,519	-4,600	-4,810	-4,963
増減数計		-5,857	-6,077	-6,014	-6,246	-6,684	-6,638	-6,064	-5,599	-5,852	-6,104	-6,327

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年は国勢調査人口(確定値)。

※2 令和2年11月1日以降の人口は、令和2年国勢調査人口(確定値 総務省統計局 令和3年11月30日)を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27、令和2年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法：県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数(出生者数－死亡者数)＋社会増減数(県外からの転入者数－県外への転出者数)

# 2 本県の経済動向

## (2) 主要経済指標の動向

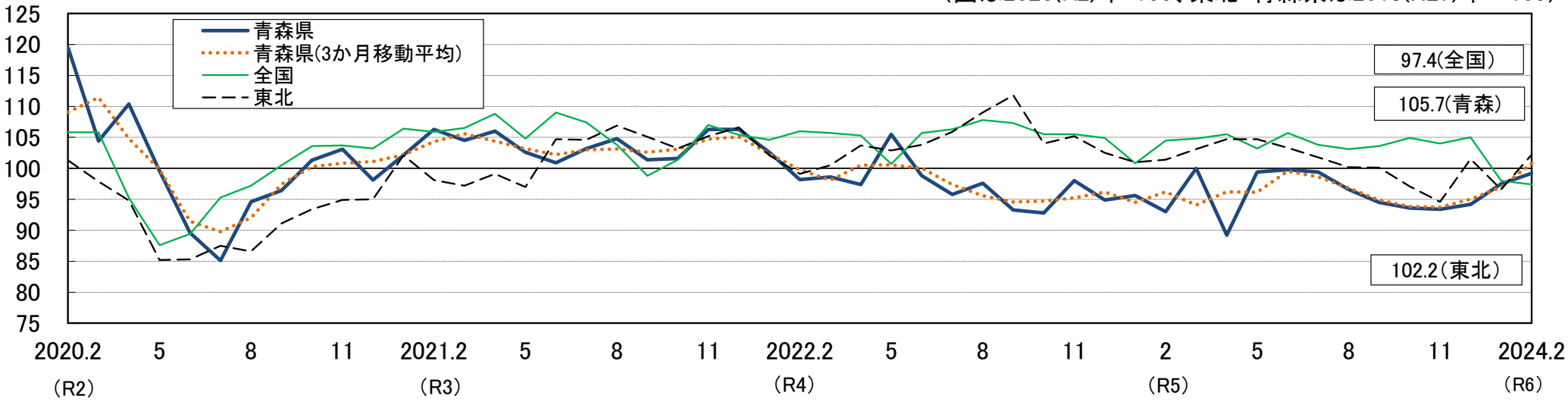
### (2-1) 生産動向

2024(令和6)年2月の青森県鉱工業生産指数(2015(平成27)年=100)は、季節調整済指数が105.7で、前月比6.6%の上昇となり、4か月連続で前月を上回った。また、原指数は93.7で、前年同月比5.8%の上昇となり、3か月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業、化学工業等が上昇に寄与した一方、金属製品工業、電気機械工業、食料品工業等が低下し、鉱工業全体では6.6%の上昇となった。

### 青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移 (季節調整済指数)

(国は2020(R2)年=100、東北・青森県は2015(H27)年=100)



# 2 本県の経済動向

## (2) 主要経済指標の動向

### (2-1) 生産動向

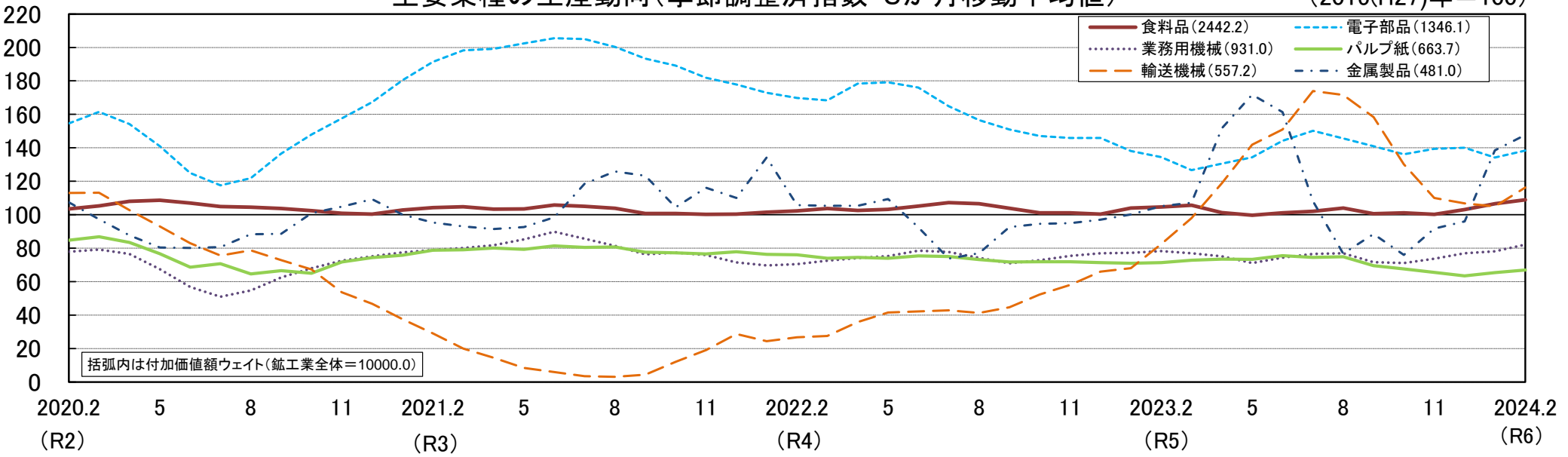
業種別動向（前月比） 鉱工業全体 6.6 %

プ ラ ス			マ イ ナ ス		
業 種	前月比(%)	寄与率(%)	業 種	前月比(%)	寄与率(%)
電子部品・デバイス工業	17.9	58.3	金属製品工業	-14.5	-23.5
輸送機械工業	26.5	31.2	電気機械工業	-13.9	-21.2
化学工業	54.4	22.9	食料品工業	-1.9	-9.8
生産用機械工業	82.2	16.7	家具工業	-14.1	-3.1
業務用機械工業	7.7	11.2	はん用機械工業	-13.6	-1.6

※寄与率とは、総合指数の上昇（低下）に対する、業種ごとの影響度を構成比で示したものであり、ポイント差とウエイトとの総合的な大ききさで決まる。

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3か月移動平均値)

(2015(H27)年=100)



資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数（速報）」

# 2 本県の経済動向

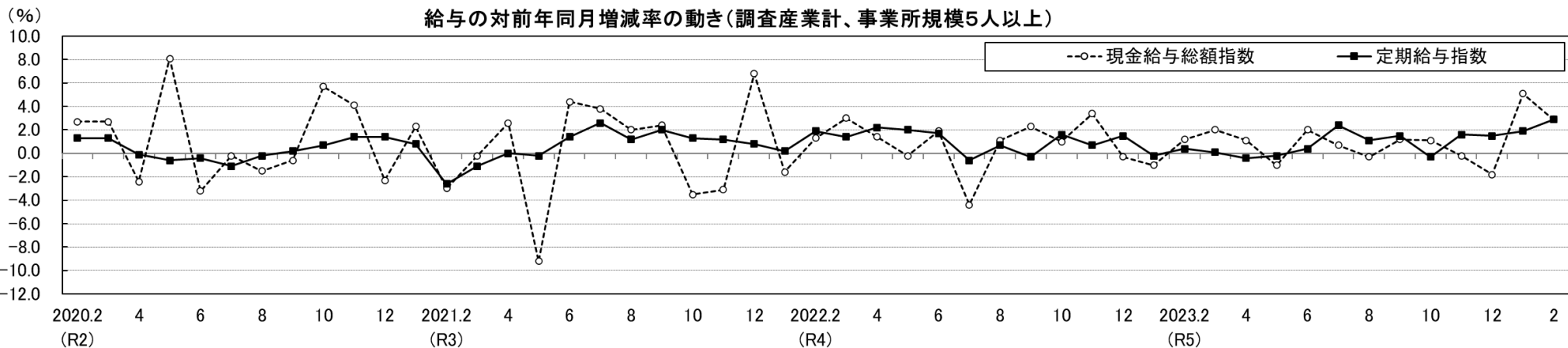
## (2) 主要経済指標の動向

### (2-2) 雇用労働

#### (2-2-1) 給与・労働時間 (毎月勤労統計調査結果)

2024(令和6)年2月の定期給与は230,031円で、定期給与指数(2020(令和2)年=100)では103.4となり、前年同月比2.9%増と4か月連続の増(現金給与総額233,998円、現金給与総額指数89.5、前年同月比2.9%増)となった。

総実労働時間は143.5時間で、総実労働時間指数は97.4となり、前年同月比2.1%増と8か月連続の増となった。このうち、所定外労働時間は8.2時間で、所定外労働時間指数は87.2となり、前年同月比増減なしとなった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

#### (2-2) 雇用労働

##### (2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

#### 給与及び労働時間の全国との比較（調査産業計、事業所規模5人以上）

	実 数		指数（2020(R2)年=100）		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	233,998 円	282,265 円	89.5	88.7	2.9 %	1.8 %
定期給与	230,031 円	277,479 円	103.4	105.8	2.9 %	2.0 %
特別給与	3,967 円	4,786 円	—	—	—	-5.5 %
総実労働時間	143.5 時間	135.1 時間	97.4	100.0	2.1 %	-0.1 %
所定内労働時間	135.3 時間	125.0 時間	98.0	99.3	2.2 %	0.0 %
所定外労働時間	8.2 時間	10.1 時間	87.2	109.8	0.0 %	-2.0 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与(所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与)を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額(ベースアップ分)、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与(ボーナス)等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 2022(令和4)年1月分から各指数は基準更新により2020(令和2)年平均が100となるよう改訂しています。
6. 全国数値は2024(令和6)年2月分速報値です。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



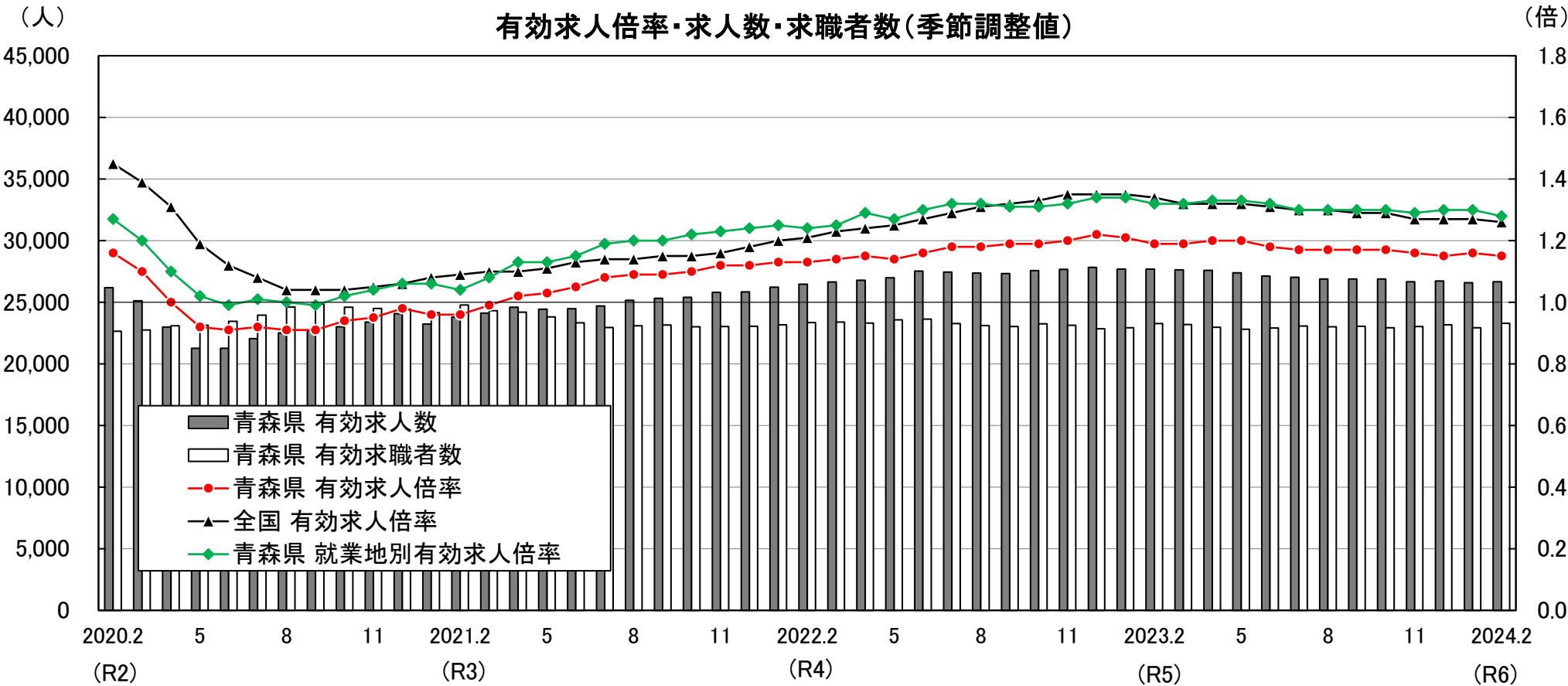
# 2 本県の経済動向

## (2) 主要経済指標の動向

### (2-2) 雇用労働

#### (2-2-2) 有効求人倍率※更新なし

2024(令和6)年2月の有効求人倍率(季節調整値)は1.15倍となり、35か月連続で1倍を上回った。就業地別有効求人倍率は1.28倍となった。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」、厚生労働省職業安定局雇用政策課「一般職業紹介状況」

## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

#### (2-3) 物価

2020(令和2)年基準の青森市消費者物価指数は、2024(令和6)年3月において、総合指数が108.7となり、前月比0.4%の上昇、前年同月比3.2%の上昇となった。

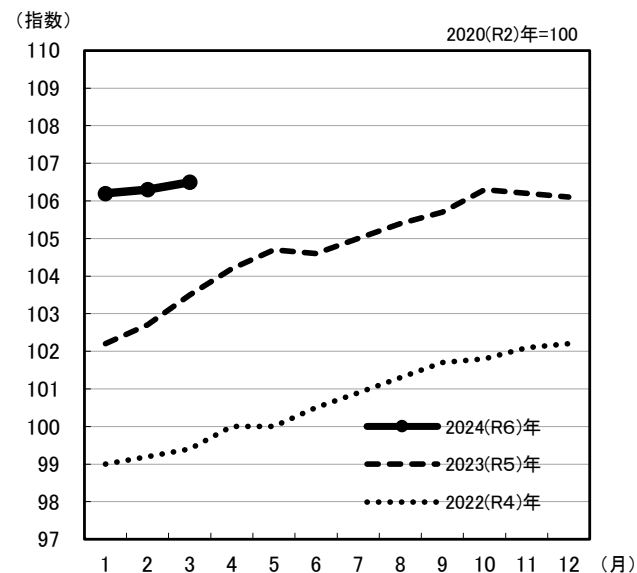
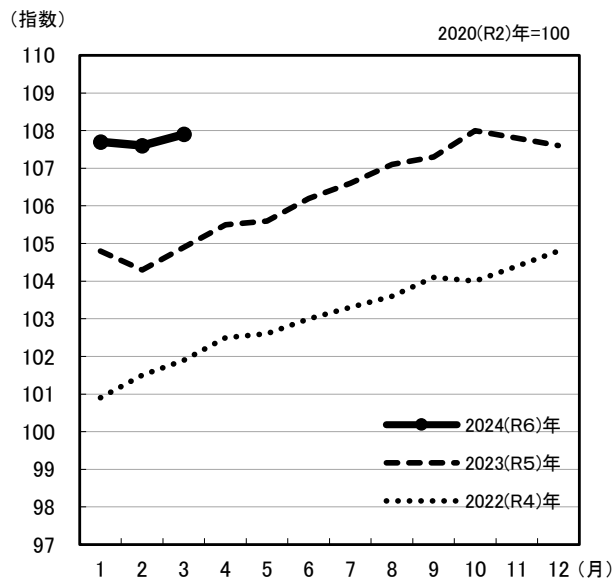
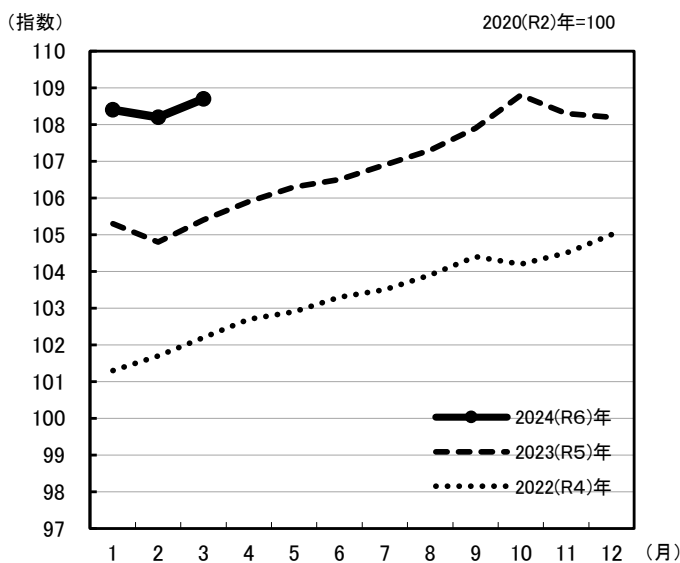
生鮮食品を除く総合指数は107.9となり、前月比0.3%の上昇、前年同月比2.9%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は106.5となり、前月比0.3%の上昇、前年同月比2.9%の上昇となった。

図1 総合指数の動き

図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

#### (2-3) 物価

総合指数が前月比0.4%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、光熱・水道などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月比3.2%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、教養娯楽などの上昇が要因となっている。

#### 10大費目指数の動き

(2020(R2)年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	108.7	107.9	106.5	103.6	116.4	124.2	105.7	117.0	112.8	105.4	101.8	95.8	99.3	109.5	105.1
前月比(%)	0.4	0.3	0.3	0.3	0.5	2.3	0.0	1.0	1.8	0.1	0.6	▲0.1	0.0	0.6	0.9
寄与度	-	0.31	0.22	0.20	0.15	0.12	0.00	0.11	0.07	0.00	0.02	▲0.02	0.00	0.05	0.05
前年同月比(%)	3.2	2.9	2.9	2.4	4.9	8.4	1.6	2.2	4.9	0.7	2.5	1.9	0.0	6.1	2.3
寄与度	-	2.76	2.47	1.50	1.44	0.42	0.34	0.24	0.20	0.02	0.10	0.24	0.00	0.48	0.13

資料：県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

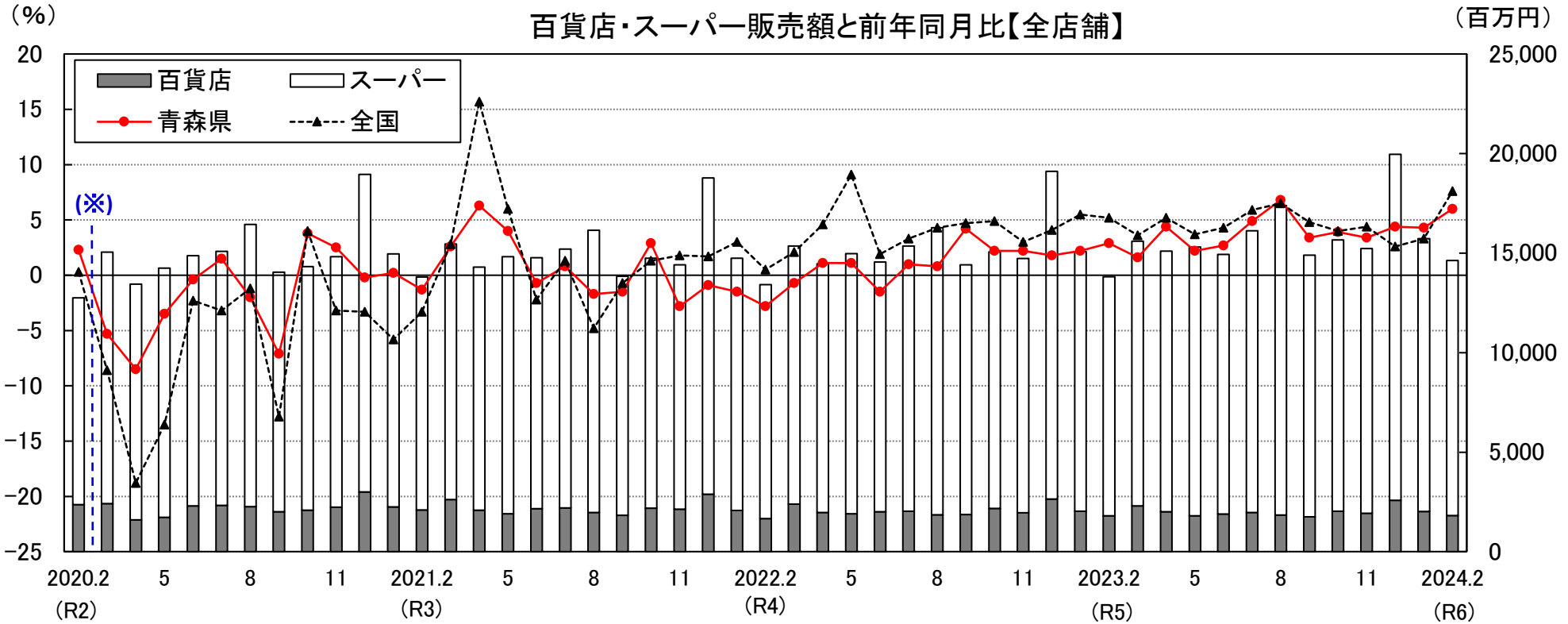
# 2 本県の経済動向

## (2) 主要経済指標の動向

### (2-4) 個人消費

#### (2-4-1) 百貨店・スーパー販売額※更新なし

2024(令和6)年2月の百貨店・スーパー販売額は、146億円で全店舗ベースが前年同月比6.0%増となり、20か月連続で前年同月を上回った。



資料：経済産業省「商業動態統計速報」

※前年同月比は、調査対象事業所の見直しが行われた場合、この見直しによるギャップを調整するリンク係数で処理した数値で計算されている。

2020(R2).3月からは2016(H28)年経済センサス-活動調査に基づいた対象事業所の見直しがなされ、スーパー及び百貨店・スーパー合計額の前年同月比について、そのギャップを調整するリンク係数で処理された数値となっている。

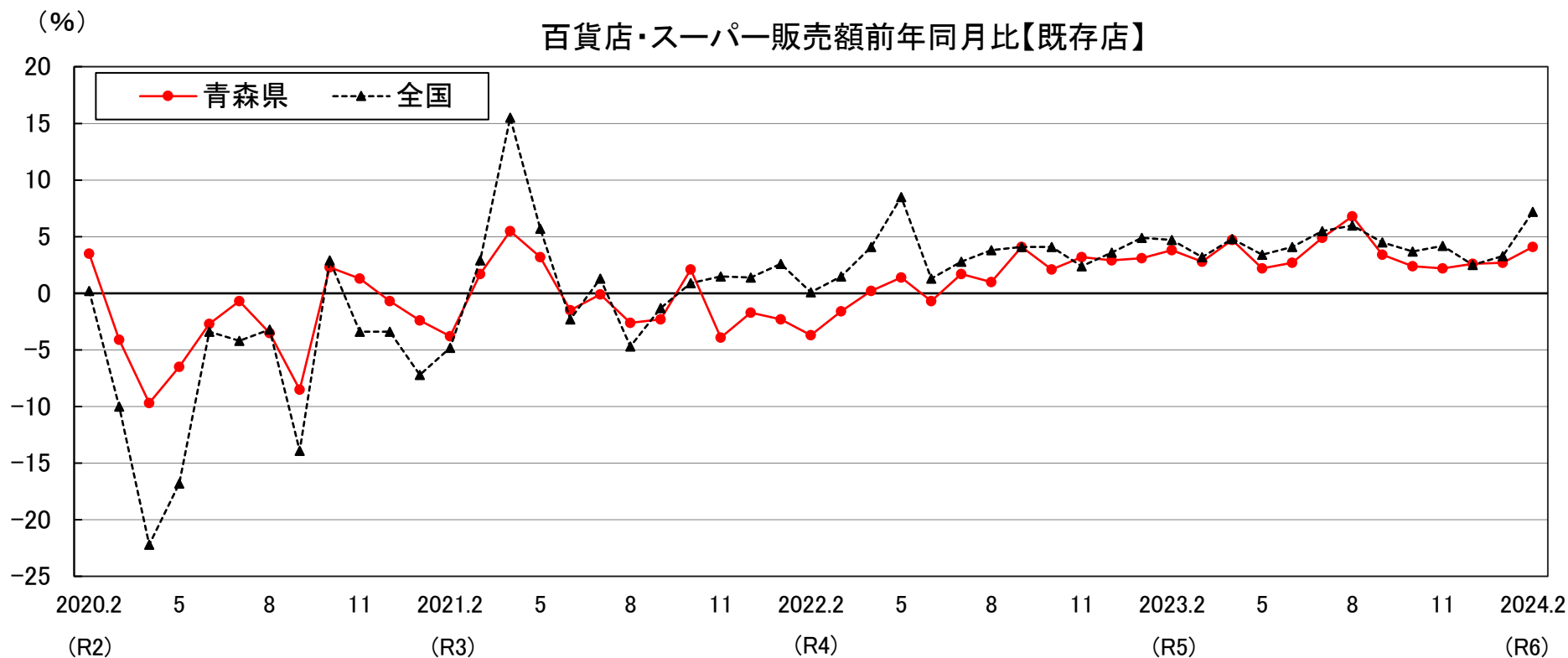
## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

#### (2-4) 個人消費

##### (2-4-1) 百貨店・スーパー販売額※更新なし

既存店ベースでは前年同月比4.1%増となり、20か月連続で前年同月を上回った。



資料：経済産業省「商業動態統計速報」

※百貨店は、従業者50人以上の小売事業所のうち、次のスーパーに該当しない事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。スーパーは、売場面積の50%以上についてセルフサービス方式を採用している事業所であって、かつ、売場面積が1,500平方メートル以上の事業所をいう。ただし、商業動態統計調査の家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの調査対象企業の傘下事業所で、調査対象となっている事業所を除く。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている事業所をいう。

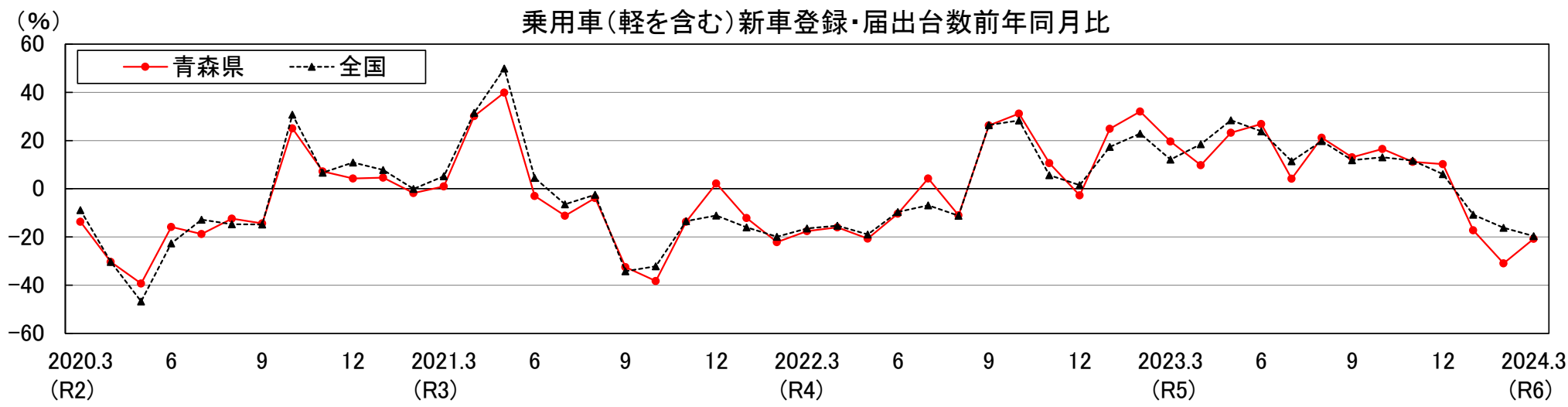
# 2 本県の経済動向

## (2) 主要経済指標の動向

### (2-4) 個人消費

#### (2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

2024(令和6)年3月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,988台で、前年同月比20.7%減となり、3か月連続で前年同月を下回った。普通車、小型車、軽乗用車のいずれも減少したことによる。



資料：日本自動車販売協会連合会青森県支部「自動車登録状況 新車月報」、同連合会「自動車統計データ」

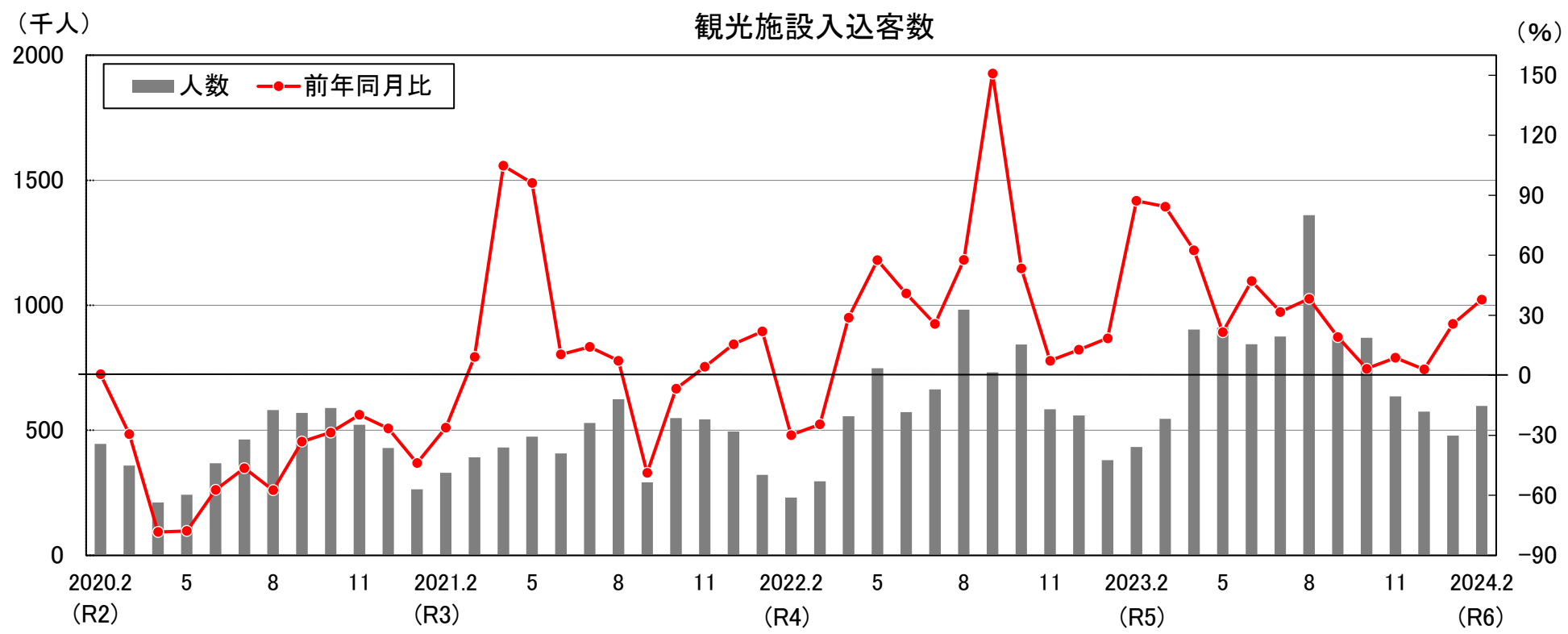
# 2 本県の経済動向

## (2) 主要経済指標の動向

### (2-4) 個人消費

#### (2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数※更新なし

2024(令和6)年2月の主な観光施設の観光入込客数は、59万7千人で前年同月比37.8%増となり、23か月連続で前年同月を上回った。



資料：県観光政策課「月例観光統計」

※観光施設34施設 (2012(H24)年1月～2014(H26)年3月は35施設、2014(H26)年4月～2016(H28)年12月は34施設、2017(H29)年1月～2018(H30)年12月は35施設、2019(H31)年1月以降34施設対比)

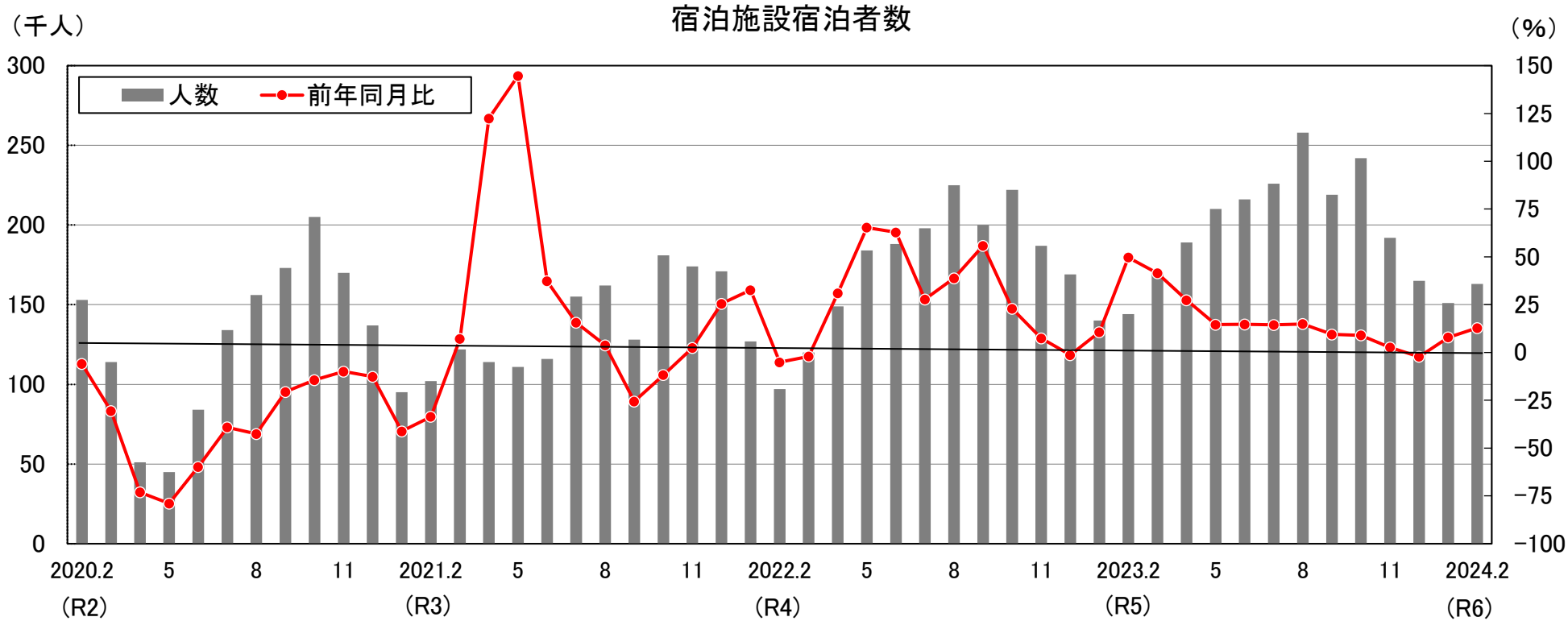
# 2 本県の経済動向

## (2) 主要経済指標の動向

### (2-4) 個人消費

#### (2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数※更新なし

主な宿泊施設の宿泊者数は、16万3千人で前年同月比12.8%増となり、2か月連続で前年同月を上回った。



資料：県観光政策課「月例観光統計」

※宿泊施設 全県75施設 (2018(H30)年6月まで79施設、2018年7月は78施設、2018年8月～2019(R1)年5月は79施設、2019年6月～7月は80施設、2019年8月～2020(R2)年3月は78施設、2020年4月～5月は77施設、2020年6月～10月は76施設、2020年11月～2023(R5)年3月は75施設、2023年4月は74施設、2023年5月からは71施設対比)



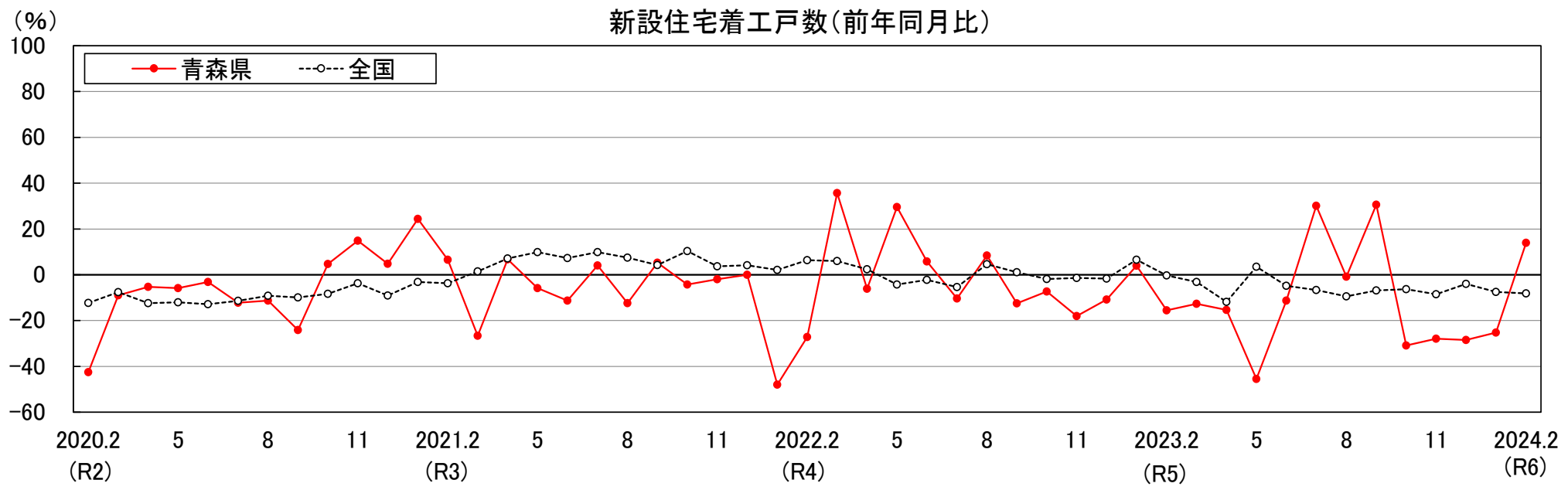
# 2 本県の経済動向

## (2) 主要経済指標の動向

### (2-5) 建築

#### (2-5-1) 住宅建築※更新なし

2024(令和6)年2月の新設住宅着工戸数は204戸で、前年同月比14.0%増となった。貸家が増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建築着工統計調査報告」

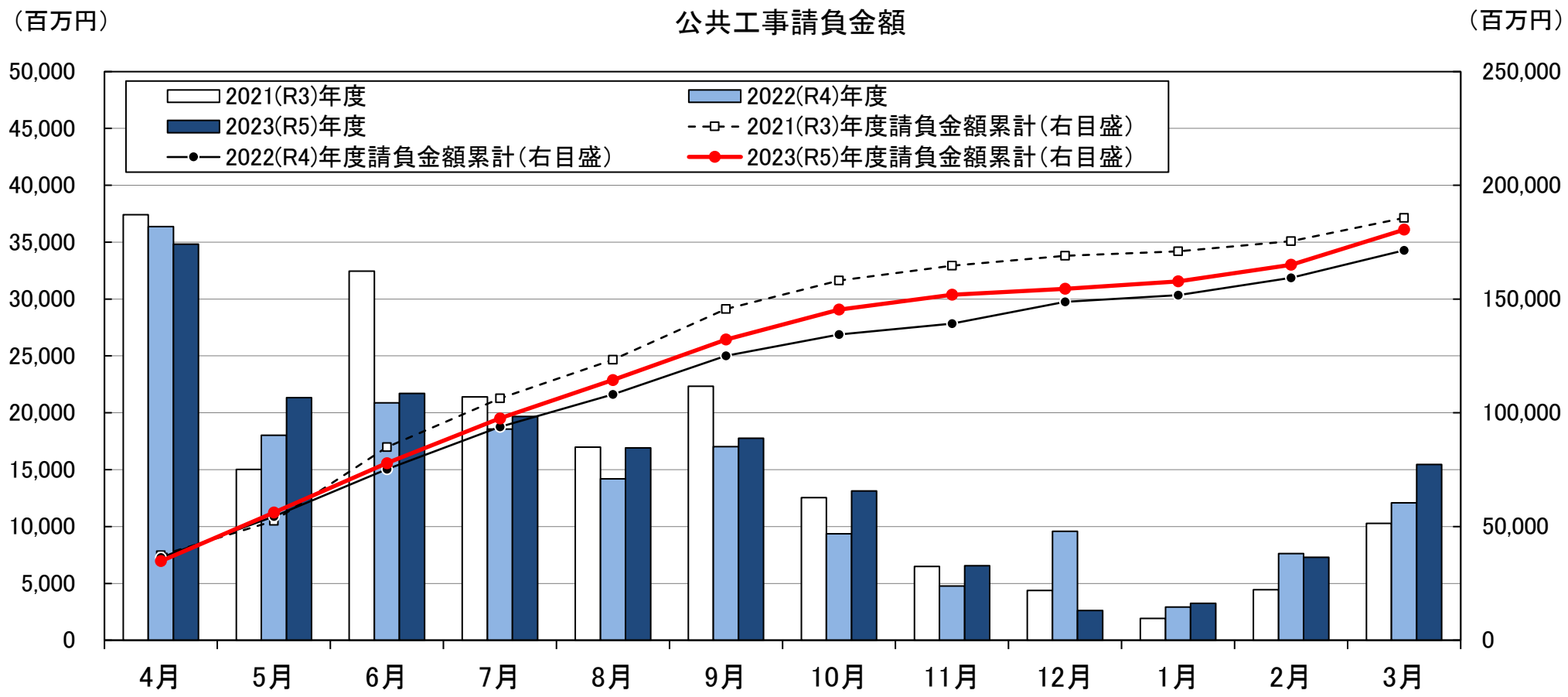
# 2 本県の経済動向

## (2) 主要経済指標の動向

### (2-5) 建築

#### (2-5-2) 公共工事

2024(令和6)年3月の公共工事請負金額は154億6,100万円の前年同月比27.9%増となり、2か月ぶりに前年同月を上回った。



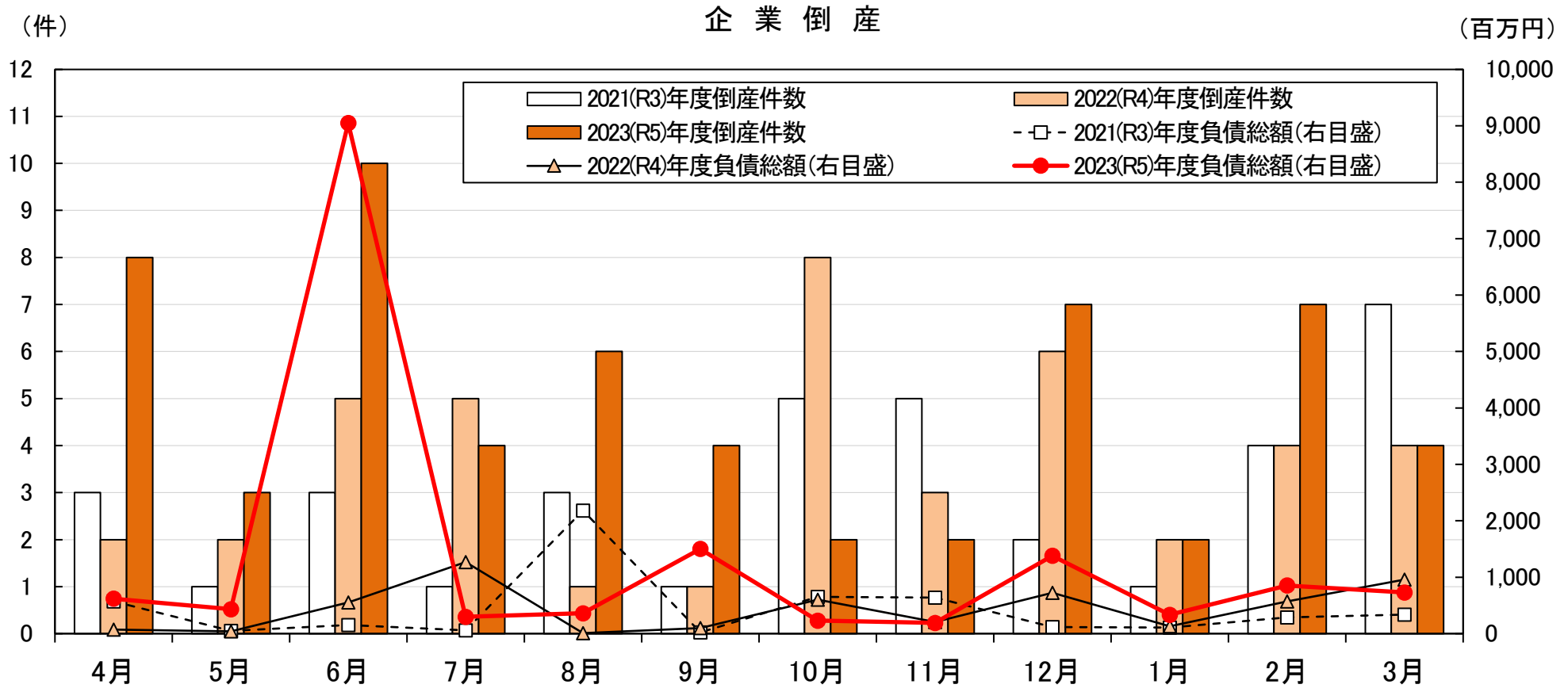
資料：東日本建設業保証(株)青森支店「～前払金保証からみた～青森県内の公共工事の動向」

# 2 本県の経済動向

## (2) 主要経済指標の動向

### (2-6) 企業倒産

2024(令和6)年3月の企業倒産は、件数は4件で前年同月と同水準となった。負債総額は7億3,100万円で前年同月比23.8%減となり、4か月ぶりに前年同月を下回った。



資料：(株)東京商工リサーチ「青森県企業倒産状況」

# 2 本県の経済動向

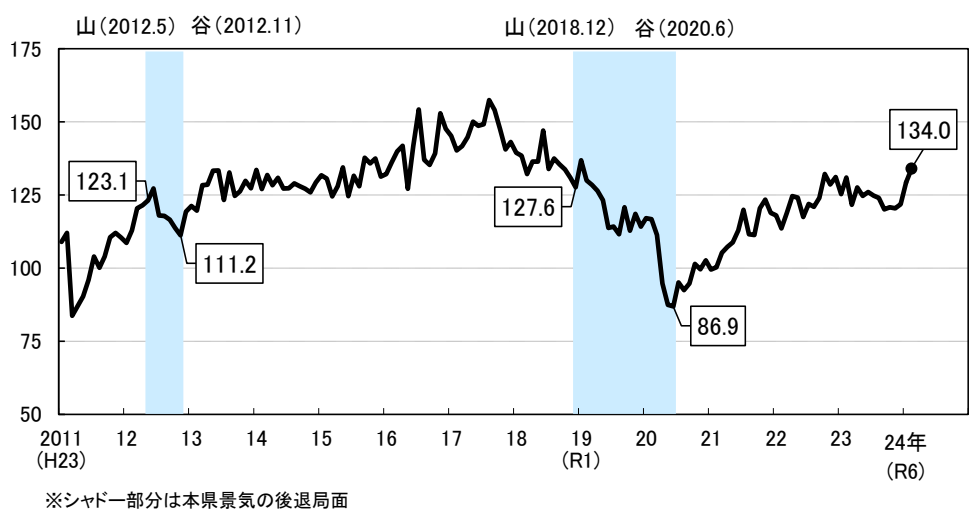
## (3) 青森県景気動向指数

2024(令和6)年2月の青森県景気動向指数(CI)は、先行指数109.1、一致指数133.9、遅行指数94.8となった。

- ・先行指数：前月を7.9ポイント下回り、3か月ぶりに下降
- ・一致指数：前月を4.6ポイント上回り、3か月連続で上昇
- ・遅行指数：前月を1.2ポイント下回り、2か月ぶりに下降

2月の一致指数は、雇用関連以外の指標がプラスになったことから上昇した。

景気動向指数(CI一致指数)の推移 (2015(H27)年=100)



※シャド一部分は本県景気の後退局面

●個別系列の動き (各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています)

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
<b>先行系列</b>					
新設住宅着工床面積	2.09	2か月ぶり	新規求人倍率(全数)	-6.63	3か月ぶり
建築着工床面積	1.62	2か月連続	乗用車新車登録届出台数	-3.22	4か月連続
生産財生産指数	0.40	4か月連続	企業倒産件数(逆サイクル)	-1.79	2か月連続
			日経商品指数(42種)	-0.53	2か月ぶり
			中小企業景況DI	-0.02	2か月連続
<b>一致系列</b>					
鉱工業生産指数	2.20	4か月連続	所定外労働時間指数(全産業)	-1.55	3か月ぶり
観光入込客数	2.00	2か月連続	有効求人倍率(全数)	-0.84	2か月ぶり
輸入通関実績(八戸港)	1.93	4か月連続			
百貨店・スーパー販売額(既存店)	0.66	3か月連続			
投資財生産指数	0.29	5か月連続			
<b>遅行系列</b>					
青森市消費者物価指数(総合)	0.64	4か月ぶり	家計消費支出(勤労者世帯:実質)	-1.68	4か月ぶり
定期給与指数(全産業:実質)	0.45	3か月ぶり	県内金融機関貸出残高	-0.70	4か月ぶり
りんご消費地市場価格	0.30	2か月連続	公共工事請負金額	-0.55	2か月ぶり
有効求職者数(全数)(逆サイクル)	0.08	2か月連続			

(参考) 青森県景気動向指数(DI)

- 先行指数 50.0% (7か月ぶりに50%を下回った後、保合)
- 一致指数 71.4% (2か月連続で50%を上回った)
- 遅行指数 14.3% (6か月連続で50%を下回った)

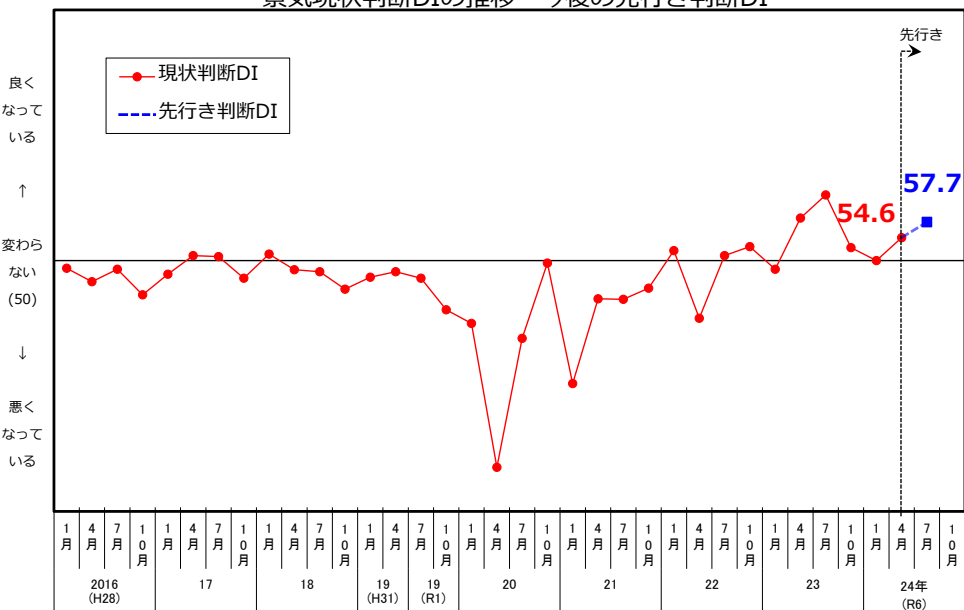
## 2 本県の経済動向

### (4) 青森県景気ウォッチャー調査 (2024年4月期)

現状判断DIは、人やお金の動きの活発化、各企業においては賃金上昇の傾向がみられることから景気が上向きであると感じるといった声が多くあった一方で、物価上昇により個人・企業ともに明るい要素は見えないという声もあった。前期比4.6ポイント上昇の54.6となった。

先行き判断DIは、観光シーズンの到来による観光客の増加に伴い、消費の増加を期待する声が多くある一方で、コロナ明けという明るい要素を上回る程の物価上昇や自然災害等のマイナス要素が強過ぎるといった声もあった。現状判断DIと比べて3.1ポイント上昇の57.7となった。

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



調査期間：調査期間 2024(令和6)年4月1日～2024(令和6)年4月16日  
 回答率：97%  
 ・3か月前と比べた景気現状判断DIは54.6となり、景気の横ばいを示す50を上回った。  
 ・3か月後の景気の先行き判断DIは57.7となり、景気の横ばいを示す50を上回った。

#### ● 3か月前と比べた景気現状判断

前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイント上昇、「やや良くなっている」が10.1ポイント上昇、「変わらない」が2.5ポイント低下、「やや悪くなっている」が10.5ポイント低下、「悪くなっている」が2.0ポイント上昇となった。判断理由では、行事・イベントによる人やお金の動きの活発化、各企業においては賃金上昇の傾向がみられることから景気が上向きであると感じるといった声が多くあった。一方で、物価上昇により個人・消費者側としては生活水準が上がったとは感じづらく、企業・売り手側としても積極的な値上げ等が顧客離れにつながることから、双方に明るい要素が見られないという声もみられた。前期調査と比べて、県南を除く3地区で景気の横ばいを示す50を上回った。

#### ● 3か月後の景気の先行き判断

今期調査の現状判断DIと比べると、「良くなる」が4.1ポイント上昇、「やや良くなる」が2.1ポイント上昇、「変わらない」が6.2ポイント低下、「やや悪くなる」が2.0ポイント上昇、「悪くなる」が2.0ポイント低下となった。判断理由では、観光シーズンの到来による観光客の増加に伴い、消費の増加を期待する声が多くあった。一方で、コロナ明けという明るい要素を上回る程の物価上昇や自然災害等のマイナス要素が強過ぎるといった声があった。今期調査の現状判断DIと比べて、全ての地域で上昇し、景気の横ばいを示す50を上回った。

# 2 本県の経済動向

## (4) 青森県景気ウォッチャー調査 (2024年4月期)

### ○3か月前と比べた景気の現状判断理由

◎	当社の来客数・売上金額共に上昇している為。(百貨店・スーパー=津軽)
◎	社員旅行や団体ツアーを見積もる際、希望の行き先に海外を挙げる方が増えた。カレンダーで連休になりそうな日は、早めに旅行計画をして来店相談する方が増えた。(旅行代理店=県南)
○	前回の調査で現況は悪いと回答しましたが、暖冬から雪対策の心配から解放され外出が増えているようです。また門出の時期でもあり洋服等を新調される方が活発になってきました。(衣料専門店=東青)
○	物価の高止まりは依然として続いてはありますが、観光需要やインバウンド消費の拡大などが景気的好循環を後押しする形となっているように見受けられます。また、高水準の賃上げも各企業で実施されていることも影響してか、個人消費は緩やかではありますが上昇傾向にあると判断されます。(家電量販店=東青)
○	県外、海外の観光客数が増えているが、スタッフが足りずに売上が増やせないでいる。(一般飲食店=津軽)
□	人々の動きは活発になったとは思いますが、景気自体が良くなってるかと言われたら、大きく変わってないと思う。(娯楽業=津軽)
□	行動制限や制約のない行事・イベントによる人やお金の動きの活発化、各企業においては賃金アップの傾向がみられることから景気が上向いているように感じる要素はある。その反面、原材料・光熱費の高騰、物価高の状況は続いており、個人・消費者側としては生活水準が上がったとはなかなか感じづらく、企業・売り手側としては積極的な値上げ等を講じることは顧客離れにつながることから「企業努力の限界」のギリギリまで耐えている場合が多いため、総合的にみてどちらとも言えない(変わらない)。(ガソリンスタンド=津軽)
□	景気拡大に伴う人材不足で人材オーダーはいただくが、人手不足が顕著で思うように、人員補充が出来ず企業運営にブレーキが掛かりそう。(人材派遣=東青)
□	業績が良いのは大手小売業など一部に限られている。企業の人手不足が慢性的で、それが好景気へのボトルネックになっている印象。(新聞社求人広告=県南)
△	3か月前と比較すると、客入数、売上共に減少している。(観光名所等=県南)
△	食料品関係では、国際市場の値下がりによる原材料価格の下落や価格転嫁による収益の上昇があるが、宿泊業・飲食サービス業は観光客の大幅な落ち込みがあること、消費者の節約志向の高まり、コロナの緩和による衛生用品の需要減少により卸売業は収益減少傾向にあるため、全体的にみると景気は3ヶ月前と比べて悪化している。(経営コンサルタント=東青)
×	求人情報を見ていると、最低賃金改定による賃金の上昇は見られるが、それ以外(業績好調など)の理由でベースアップしている企業はほんの僅かだな、との印象を受ける。対して数年前から続いている、生活に必要なあらゆる物品の値上がり、現在もなお止まらない(この先も止まりそうもない)値上がりの要因が原料・輸入コストの増大によるものではなく、企業の利益増大に結びつくものに転換されない限り給与に反映されることはなく、消費拡大には繋がらない。こういったことを考えると、現時点で景気が上昇しているとは感じ難い。(求人情報誌=東青)

### ○3か月後の景気の先行き判断理由

◎	円安で外人旅行者が、国内観光地に押し寄せているというニュースが流れている。当地では、これから桜祭りやねぶたで外人観光客が増えると思う。(一般小売店=津軽)
○	暖かい時期を迎え、イベント、催し物の開催・増加に伴い、消費行動も活発化してくるのではないか。(タクシー=県南)
○	冬季間の宿泊閑散期から、ようやく予約が増えて来ています。当ホテルはインバウンド需要は余り影響はないものの、観光客やその他イベントに関わる団体予約等の動きが見られます。宴会等もコロナ禍の状態から脱却したように思われます。(都市型ホテル=下北)
○	大手企業の春闘における賃上げ率が高水準だったことと、マイナス金利解除により日銀が賃金と物価の好循環が見通せると判断している点。(建設=東青)
□	住宅着工、設備投資などの投資資金、ゼロ金利枠が外され緩やかに先々金利は上がるとすれば足踏み状態で様子見が一定期間続くのでは、円安は改善されず不安定要素。(設計事務所=東青)
□	全産業で価格転嫁による値上げが進み、民間調査によると加工食品を含む2,800品目について4月から値上げが発表されている。また、人手不足が深刻化し、2024年問題の建設業・運送業の残業規制が始まっている現状から、先行きは不透明と考える経営者が増加している。(経営コンサルタント=東青)
□	人、モノの動きなどは引き続き増えてくると思うが、労働時間の問題、人不足の問題、賃金の問題など多々問題もある。経費が増える要素があるなかでの利益獲得は引き続き難しい状況が続くと思われる。(飲料品製造=県南)
□	印刷情報用紙の需要低迷。(紙・パルプ製造=県南)
△	物価高、価格高騰で購買力低下。(衣料専門店=津軽)
△	電気、ガスの補助が5月末に終了など値上げが多くなるため、買い控え等おこるのではないかと。(百貨店・スーパー=下北)
△	物価の上昇は今後も続くが、労働者の賃金ベースアップはそれに全く追いつかないだろうから。(一般小売店=県南)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」